

## 8月の観V & Cリスト

日出彦

### [1] Star Wars Episode &



これは映画館でエピソード2を観てから、早速エピソード1のビデオを借りて再観したものです。エピソード1も映画館で観たのですが、途中眠ってしまったりして、あまり印象がよくなかったのです。もう一度おさらいして2つを続けてみると、やっとストーリーが見えてきました。ドウ・クー伯爵に右腕を切り落とされたアナキンがいつダースベイダーになるのか。エピソード3が待たれるところです。子供時代のアナキンのポッドレースシーンは完全に「ベン・ハー」をパロっていると思いませんか。

### [2] ハリーポッターと賢者の石



これは堪能しました。いい映画と思います。

原作を既に読んでいるとストーリー展開が分かってしまうので、読まないで観て大正解です。子役が主役ですが、みな可愛くて上手です。系譜的には「ネバーエンディングストーリー」の流れですね。魔法の国に行くまでのプロセスがとてもうれしい。原作通りなのでしょうが、蒸気機関車に乗るまでがおもしろい。

魔法の箒の乗るまでの教育をはじめ、数々の小道具が散りばめられています。DVDを買いたいベストスリーに入ります。ちなみに、第2位は「グリーン・デスティニー」、第3位は「千と千尋の神隠し」です。いまのところ。

### [3] トータル・フィアーズ

これはヴァージン・シネマで観ました。現在に原爆を爆発させる映画はシュワルツネッガーのものや幾つかすでにあります。9.11のテロがまだ記憶に残っている時期であり、ありそうな設定で恐ろしい。小型核兵器が手に入れば、日本でも起こりうる設定です。東京ドームでそうなったら大変なことですね。ネオナチ活動家のテロが引き金になって、「疑心暗鬼」による米露の一触即発の駆け引きを主題にしているのですが、前哨戦が始まったりして、かなり乱暴な結末の映画です。小生は映画の中の大統領を初めとする被爆者の今後が妙に気になりました。ラストシーンはまさに「ゴッドファーザー」のパロディですね。

### [4] イルマ・ヴェップ(仏)

実はこの映画はまだよく理解していません。Irma Vepとは怪盗団の女首領の名前でVampireのアナグラムです。「吸血強盗団」という名前ですが、吸血鬼とは全く関係がありません。「キャッツアイ」や「バットマン」などに出てくるような猫のような覆面コスチュームの女賊を主人公にした無声映画のリメイクを行うことになり、カンフー映画を見て感激した香港の女優を監督は主役にスカウトします。この女優が3日遅れて事務所に着くとこの映画は始まります。なぜ主演が中国人な

のかに困惑するスタッフとの葛藤やこの中国女優のドライな生き方が周囲を混乱に巻き込みます。未編集ラッシュをみて監督は魂が入っていないと悩み、錯乱状態になり、そして失踪します。スタッフに不穏な噂が流れ、裏切り行為があったりする内に、この監督が夜な夜なスタジオに忍び込んでいる痕跡が発見されます。そして、試写会の日、香港女優は既に米国に飛び、スタッフや後継監督が見守る内に映写が始まります。そして意外な展開で一挙にエンディングに繋がっていきます。

### [5] インドシナ(仏)

これは1992年のカトリーヌ・ドヌーブ主演の映画です。「ジャカルタ」や「インド夜想曲」の流れでみました。ベトナム戦争勃発から停戦協定のときまでの一大叙事詩です。主人公はフランスの植民地時代にゴム園を営んでいる未亡人です。両親をテロで失った王族の孤児を養女にして育てて行きますが、大学で娘は解放運動に関心を持ち、次第に身を投じて行きます。母と娘の思想的葛藤や内線の模様が描かれ、娘は繰返し投獄されます。やがて、運動家の男との間で生まれた息子を主人公に預けて去っていきます。それから月日が流れて、いまはゴム園を引き払って娘の息子とパリに住んでいる主人公は、停戦協定の北ベトナム代表団の一員に母が加わっていることを息子に話して聞かせます。それを知った息子は……。ベトナムはまだ行ったことがありませんが、景色は美しく描かれ、南東アジアの雰囲気満喫できます。

### [6] 田園に死す



これは寺山修司監督の映画で、仮面劇ともいえる白塗りや黒塗りで諸々の俳優が素顔を隠して出ています。青森の恐山を舞台に素封家の嫁に対する少年の愛の交流を描いた映画と言い切るにはいろんなテーマがごちゃごちゃしすぎています。最後に、出演者はみんな死んでしまって黄泉の国から現在の都会に回帰するシーンが印象的です。素封家の嫁に八千草薫が出ています。

### [7] 春楼 ジャパネスク

これは鈴木清順監督のTV用ビデオだそうです、よくできています。旅回りの盲目の女、風吹ジュンと職人の伊武雅刀との恋愛物語といってよいでしょう。春琴抄のような感じもありますね。最後に夜桜が舞い落ちる光景は清順ワールドでした。赤を基調に原色を使った画面は、同じように赤が多い寺山修司とは違って、歌舞伎の舞台のような様式美で明るさに満ちています。

### [8] ツイゴイネルワイゼン

これは古典的な映画で、清順監督の出世作です。HPによると「浪漫三部作」というのだそうです。他は「陽炎座」と「夢二」。まだ、観ていないので、これらはその内に批評を。



さて、ストーリーはよく覚えていないのですが、教授夫人の不倫、三角関係だったかな。盲人の喧嘩のシーンや原田芳雄の怪演のみが印象に残っています。清順の映像の美学はモンタージュのエイゼンシュタインに通じるようなと思いますが、歌舞伎の所作の影響が大きいように思います。

以上 - 今月はシネマも見ましたのでV&Cとしました。でも、あまり内容を憶えていません！